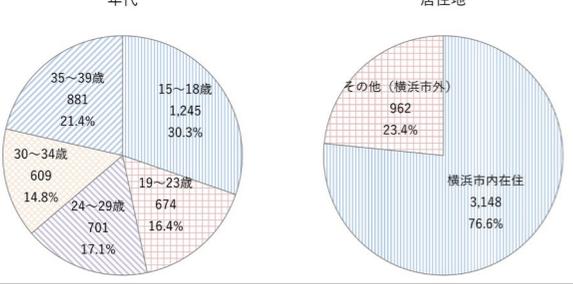


【調査概要】

「技能職に関する若者意識調査」

- 調査期間：令和4年11月1日（火）～12月18日（日）
- 調査対象：15～39歳の若者 回答数：4,110
- 調査方法：Webでの回答

【回答者属性】



分析の指針

本調査では、以下の2つの質問（Q1, Q2）の回答により、調査対象の若者を以下のグループに分け、一部において主に2つの視点で分析している。

● 消費者視点での分析

- グループA：Q1で「頻繁にある」「時々ある」と回答
- グループB：Q1で「あまりない」「まったくない」と回答

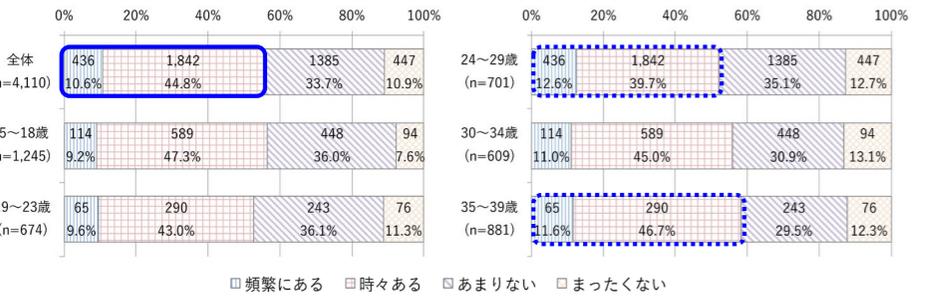
● 職人の成り手視点での分析

- グループC：Q2で「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答
- グループD：Q2で「あまりそう思わない」「まったく思わない」と回答



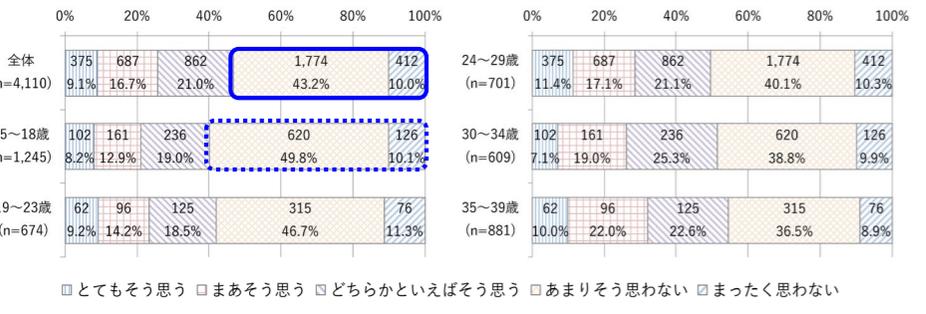
Q1. 「職人」の商品・サービスを利用することはあるか

- 過半数の若者が、「職人」の商品・サービスを利用している。
- 「職人」の商品・サービスを利用している割合（「頻繁にある」+「時々ある」）は、35～39歳が最も高く、24～29歳が最も低い。



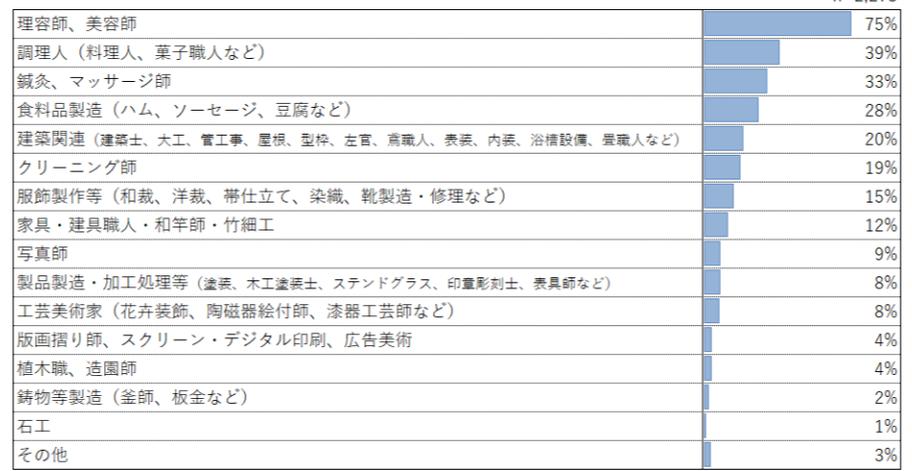
Q2. 職人の仕事を職業として選択したいと思うか

- 過半数の若者が、「職人」の仕事を職業として選択したいとは考えていない。
- 特に、15～18歳では約6割が「職人」の仕事を職業として選択したいとは考えていない。



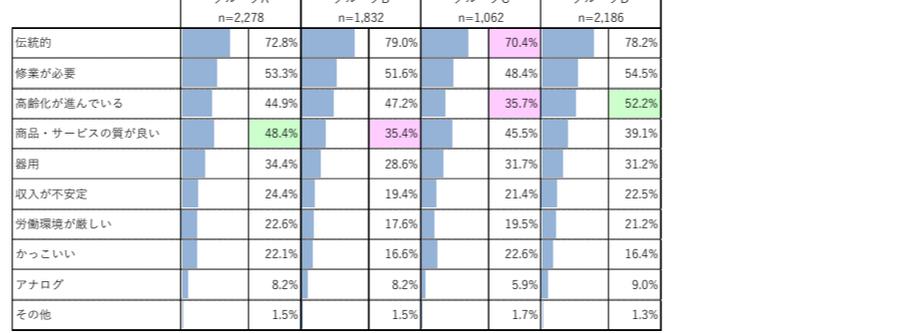
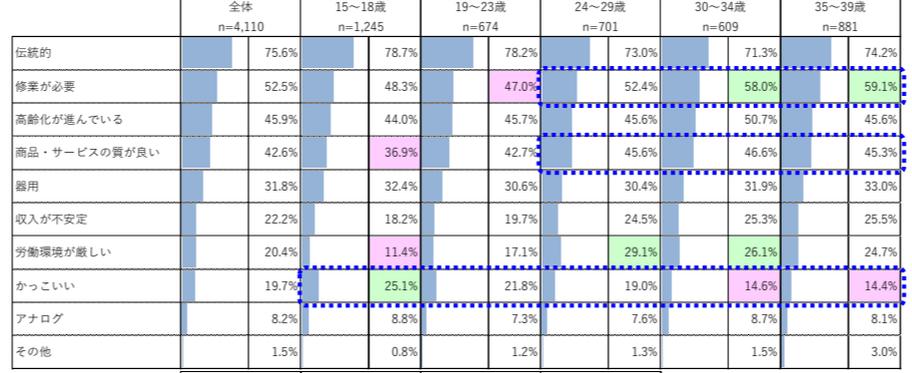
「職人」の商品・サービスの利用状況

- 「理容師、美容師」が圧倒的に高く、「調理人（料理人、菓子職人など）」、「鍼灸、マッサージ師」がそれに続く。
- 「版画摺り師、スクリーン・デジタル印刷、広告美術」「植木職、造園師」「鋳物等製造（釜師、板金など）」「石工」の利用は5%以下である。



「職人」のイメージ

- 「伝統的」「修業が必要」と回答した若者が半数を超える。
- 「高齢化が進んでいる」というイメージを持つ若者は比較的多い。
- 「収入が不安定」「労働環境が厳しい」というイメージを持つ若者は比較的少なく、年代別で見ると、15～18歳はその傾向が顕著である。
- 高い年代は「修業が必要」「商品・サービスの質が良い」と回答した割合が高い傾向にあり、低い年代ほど「カッコいい」と回答した割合が高い。
- 全体と比べて、グループAでは、「商品・サービスの質が良い」と回答した割合が特に高く、「器用」「収入が不安定」「労働環境が厳しい」も高い。グループBでは、「伝統的」と回答した割合が高く、「商品・サービスの質が良い」が特に低い。
- 全体と比べて、グループCでは、「カッコいい」と回答した割合が高く、「伝統的」「高齢化が進んでいる」が特に低い。グループDでは、「高齢化が進んでいる」と回答した割合が特に高く、「修業が必要」「アナログ」も高い。



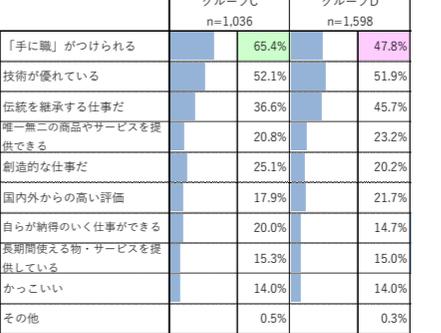
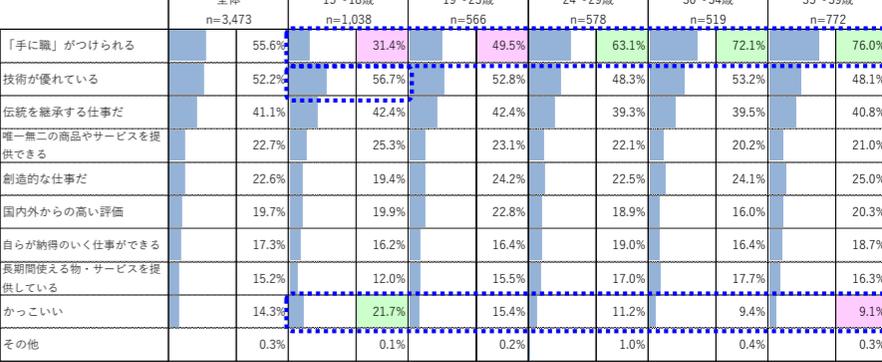
「職人」の仕事に魅力を感じるか

- 約2/3の若者が「職人」の仕事に魅力を感じている。



「職人」の仕事に魅力を感じる理由

- 「職人」の仕事に魅力を感じている若者の過半数が、「『手に職』がつけられる」「技術が優れている」ことを理由に挙げている。
- 高い年代ほど「『手に職』がつけられる」と回答した割合が高く、低い年代ほど「カッコいい」と回答した割合が高い。
- 15～18歳では、「技術が優れている」と回答した割合が最も高い。
- 全体に比べて、グループCでは、「『手に職』がつけられる」「自らが納得のいく仕事ができる」と回答した割合が高く、グループDでは、「伝統を継承する仕事だ」が高い。



技能職が後継者不足である理由

- 「職人になる方法がわからない、なるまでが大変そう」「仕事内容が厳しそう」「収入が不安定そう」と回答した割合が高く、若者は職人の仕事・業界に対して厳しい印象を持っている。
- 全体に比べて、「休みが少なそう、取りにくそう」と回答した若者は、高い年代で割合が高い。

